佐藤忍先生を送る

経 済 学 部 長
長　山　貴　之

佐藤先生は令和４年３月31日をもって香川大学経済学部を定年により退職されました。香川大学経済学会は，佐藤先生から賜った学恩に対し感謝の意を表するため，本書を佐藤先生の退職記念号とし，ここに謹んで献呈いたします。

佐藤先生は，香川大学にご着任以来32年間にわたり，社会政策の研究と教育に携わってこられました。香川大学は佐藤先生の多大なるご功績に対し，令和４年４月に名誉教授の称号をお贈りいたしました。

佐藤先生は昭和54年３月に香川大学経済学部を卒業され，同年４月に東北大学大学院経済学研究科博士前期課程に進学された後，昭和56年３月に同課程を修了されました。佐藤先生は同年４月に東北大学大学院経済学研究科博士後期課程に進学され，昭和59年３月に同課程を単位取得退学された後，同年４月に東北大学経済学部助手に着任されました。佐藤先生は昭和61年３月に東北大学経済学部助手を退職され，ダルムシュタット工科大学研究室助手（非常勤）およびルール大学研究助手を歴任された後，平成２年４月に香川大学経済学部講師に着任されました。佐藤先生は平成３年６月に香川大学経済学部助教授に，平成12年５月に経済学部教授に，昇任されました。

この間，教育活動においては，経済学教育において必要不可欠な社会政策，労働経済学，労使関係論などを担当されました。学部および大学院の演習においては，懇切丁寧な指導により，数多くの有為な人材を輩出され，本学の人材育成に貢献されました。

佐藤先生の研究テーマは国際労働力移動および外国人労働者であり，これらに関する研究は以下のように大別されます。

第一に，旧西ドイツに関する国際労働力移動の研究が挙げられます。佐藤先

生は旧西ドイツでの３年半の研究滞在を経て，「国境を越える労働者」の旧西ドイツにおける受け入れのダイナミックな展開過程を「ガストアルバイター時代」として把握され，その研究成果を『国際労働力移動研究序説－ガストアルバイター時代の動態』（信山社，平成６年）として公刊されました。同書により，佐藤先生は東北大学大学院経済学研究科で博士（経済学）を取得され，社会政策学会がその年に創設した学会賞（第１回奨励賞）を授与されました。「ガストアルバイターがドイツの労働者として定着するまでの労働政策や労使関係機関の活動と，この労働者たちを受け入れるために経営内に作り出された熟練形成やキャリア形成の仕組みを，それがはらんでいる矛盾や限界を含めて，高い実証性で解明しており，外国人労働者問題の研究水準を飛躍的に高めた完成度の高い作品」であり，「外国研究という類型比較の視点を越えた，いわば当事者的な視点からの分析は，この普遍性の高い問題領域の研究として，今後の研究の起点となる業績」として高く評価されました（社会政策学会ホームページ，https://www.jasps.org/1994gakkaisho.html）。

第二に，平成元年の東西冷戦終結後の国際労働市場の変化に関する研究が挙げられます。佐藤先生は，東西ドイツ統一，EU 統合を推進するドイツにおける労働力輸入の展開過程について建設労働市場，IT 労働市場を対象として解明されました。それまでの，賃金の高位平準化と職業教育の徹底充実にもとづく濃密な生産協同体というドイツモデルについて，ヨーロッパ化の推進に伴う格差拡大によって，亀裂がもたらされました。送り出し国としてのフィリピンについても，送り出し国の視点から国際労働力移動の最新動向を考察されました。また日本においても，ほぼ同じ時期に，国際労働市場の潮流が押し寄せ，外国人労働者が大きな議論となりました。しかしながら，日本の主たる戦略は海外直接投資による間接的な労働力輸入，すなわち「移住よりも貿易」（trade in place of migration）でした。当時の代表的な外国人労働者は日系人でした。たとえば造船業の重層構造とその労働編成における日系人の位置づけなどについて，『大原社会問題研究所雑誌』に連載されました。これらの成果を『グローバル化で変わる国際労働市場－ドイツ，日本，フィリピン　外国人労働力の

新展開』（明石書店，平成 18 年）として公刊されました。

第三に，外国人労働者受け入れ国としての日本に一層立ち入った実証的研究が挙げられます。一時的な労働移民の中から競争的な労働市場を生き抜くような有能な人材を育成し，選抜し，やがて定住・永住してもらうという日本的な人材育成指向型ともいうべき移民政策がいままさに構築過程にあることを，国際比較の視点を踏まえつつ論証したのが『日本の外国人労働者受入れ政策－人材育成指向型』（ナカニシヤ出版，令和 3 年）です。とりわけ日本各地の農業，縫製業，介護の現場における精緻な実態分析は，雇用主の信頼を得てはじめて実現しうるものであり，特筆に値します。さらに「国境を越える労働市場」という未開拓な研究領域にも先鞭をつけられました。日本における外国人労働者研究の第一人者である上林千恵子法政大学名誉教授からも，本書は「一貫して移民研究を行ってきた人にしか書きえない現実的な洞察に満ちた書物」であり，「日本の今後の移民政策を考察する上で，また世論を喚起する上で，本書は貴重な視座を提供」するものとして，高く評価されています（『日本労働研究雑誌』736 号，令和 3 年 11 月，101～103 頁）。

以上のように，佐藤先生は，「国境を越える労働者」の諸課題について社会政策の観点から研究・研鑽を重ね，それを 3 冊の学術書（単著）として見事に結実させ，そして発展させてこられました。佐藤先生の研究は，当該分野における日本の研究水準の向上に大きく寄与したといってよいでしょう。

管理運営面においても，佐藤先生は多大な貢献をされました。経済学科長（平成 14，19～20 年度），学長特別補佐（平成 18 年度），経済学部副学部長（平成 21～29 年度），学生生活委員長（平成 23～29 年度），経済学研究院副研究院長（平成 23～24 年度），教育研究評議会評議員（平成 25～令和 3 年度），人文社会科学系長（平成 29～31 年度），経済学部長（平成 29～令和 3 年度）などを歴任され，経済学部および経済学研究科のために尽力されました。

社会貢献活動では，香川県立保育専門学院非常勤講師（平成 10～22 年）や放送大学非常勤講師（平成 15 年）などを務められたほか，四国厚生支局四国地方社会保険医療協議会委員（会長）（平成 24～令和 2 年），香川地方労働審

議会委員（会長）（平成 24～令和 3 年），香川県建設産業人材確保・育成検討会委員（会長）（平成 27 年，令和 2 年），四国生産性本部理事（平成 29～令和 3 年），高松商工会議所参与（平成 29～令和 3 年），四国厚生支局地域包括ケア推進本部参与（平成 30 年～令和 3 年）などを務められました。また，香川地方労働審議会における委員および会長としての功績が認められ，令和 3 年度には地方労働行政関係功労者表彰を受けられました。

本学の研究，教育，管理運営，社会貢献のいずれの活動においても，上述したように多大な貢献をされた佐藤先生を，定年退職とはいえ失うことは本学にとって誠に大きな痛手です。佐藤先生が今後ともご健勝であられることを心より祈念いたしますとともに，我々後進のためにご指導，ご鞭撻をたまわりますよう，よろしくお願い申し上げます。